

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第474号 平成25年1月17日

消せる複写機

昨日は、3億年も保存できるメモリーのお話をしました。今日は、「消せる複写機」のお話をしましょう。

世の中にパソコンというものが登場した時、これが普及すれば紙媒体は不要になるという話を聞かされたものです。しかし現実には、パソコンからプリントアウトされた膨大な紙の資料が机の上を占拠しています。

その要因の一つは、我々人間にあるといえます。必要な情報はパソコンから見る事が出来ますが、それだけでは物足りず、紙に印刷された資料を手にして初めて情報が自分のモノになった気になって安心している、皆さんにはそうした経験はありませんか。

もう一つの要因としては、複写機の普及と機能の向上が考えられます。

かつてのように手で一枚一枚ガリ版印刷していた頃と違って、今では誠に手軽に、かつ、大量にコピーすることが可能となりました。かくて、不要になった印刷物は産業廃棄物となり、お金をかけて処分している始末です。

これでは、資源の無駄使いといわれても仕方ありませんし、もしもコピーした紙を何度でも再生して使用する事が出来れば、資源の有効活用という意味でも画期的といえるでしょう。

この難題に、日本の最先端の技術が応えてくれました。

東芝テックは、「文字が消せるトナー」を新たに開発すると共に、印刷した文字を瞬時に消せる複写機を世界で初めて実用化し、本年2月から国内出荷を開始するそうです（平成24年11月13日付日経新聞）。

東芝テックによると、この複写機によって同じ用紙を平均5回まで繰り返し使える事になり、コピー用紙の購入・廃棄費用や紙の製造まで含めた二酸化炭素排出量を大幅に削減できるとしています。

ところで、通常複写機は150度から180度の高温でトナーを用紙に定着させていますが、「文字が消せるトナー」は60度という低温で印刷した文字が消えてしまうため、低温定着の技術開発が一番大変だったようです。

なお、最新の技術にも出力が今のところ青色のみという課題があり、東芝テックとしては引き続きトナーの多色化などに取り組むとしています。

新しい複写機は、複写機とファックス等の機能を合わせた「複合機」と、熱を加えて用紙を白紙に戻す専用の「消色機」を組み合わせて使う事になります。

また「消色機」は、文字を消すだけでなく、文字を消す前に文書を電子化して保存できるスキャナー機能も備えています。

情報機器が如何に発達しようとも、情報という海に呑みこまれ、溺れそうな日々を送っている私達自身が紙媒体の呪縛から解放されない限り、「消せる複写機」は今後必需品になって行くことでしょう。

「複合機」と「消色機」を合わせた「文字を消せる複写機」の値段は141万円（税別）との事ですが、コピー用紙のコストや処分費用の削減、更には環境への配慮を考えれば、決して高過ぎるという事はないと思います。

物作りといえは今や中国や韓国の伸張が著しく、日本は悲哀を感じる場面が少なくありませんが、なかなかどうして捨てたものではありません。（塾頭：吉田 洋一）